

2013 年度 ジャパンフェスティバル 催行決定

2011 年度 8 月 18 日の JCV 総会において、JF2013 をどうするかが話し合われました。

会員の希望、また外部からの楽しみを考えれば、是非継続をしたいと言うのが願でした。しかし、実行委員長がその場で決まりませんでした。

その時、過去数回の実績のある永嶋実氏に依頼はしましたが、会は彼に一任して保留のままでした。

それから2ヵ月後、10月11日 JCV 定例会に彼も出席されました。その場で、準備段階の段取りなどいろいろのこ

とが話し合われました。永嶋氏は過去のメインの担当者からも協力的な言葉を下さったとの報告もされました。「来年も JCV 会員の協力が得られるのであれば、実行委員長として準備に当たりましょう」と言う結論を頂く事が出来ました。

その結果、今年も又、ジャパンフェスティバルの委員長を引き受けていただく事が決まりました。

どうぞ、皆様のご協力お願い致します。

事務局長 記

JCV 文化サロン 11 月から 12 月のプログラムご案内 (11・12 月の予定表は、2 頁に掲載)

文化サロンも好調に進んでおります。9 月から寄席をしていただいております笑子師匠はまもなく日本に帰国され活躍の場を日本に移される予定ですので、11 月 19 日が最後の文化サロンでのショーになります。

この1年ジャパンフェスティバルを皮切りにメルボルンで気軽に寄席が楽しめるという夢のような現実が起こっていたわけです。笑子師匠は度重なる日本との行き来の中で、本場の日本で寄席を演じられ、メルボルンにもたくさんの

ネタを仕入れて帰って来られております。

11 月の高座もまた楽しみです。毎月違うネタを演じられる笑子師匠も大変だと思いますが、泣いても笑っても 11 月 19 日が最後の文化サロンでのショーになります。会員の方の無料入場特典があります。

11 月は文化サロン最後の寄席という事で飲み物とスナックの用意をしております。どうぞお見逃しなく。

文化サロン担当者 記

JCV 文化サロン

《書道教室 ロウ弘子》

書道は私の専門分野ではありませんが、書には 6 歳の頃から接しており、折りにふれ毛筆には親しんでおりました。

メルボルンでは日本語教育と教育学関係の分野に関わっておりましたが、10 年ほど前に退職しました。

但し、書を教えるのは初めての経験で、皆さんに日本の書に親しんでいただけたらと思っています。

文化サロンの教室ではむずかしいと言われている「かな書き」に敢えて挑戦し、小倉百人一首から自分の好きな、あるいは書きたいと思っている和歌一首を選びそれを練習して作品を作り上げよう、との意図のもとでスタートしました。

今年の 3 月に第一回のクラスが始まりました。

最初は課題となる一首を選ばせてもらいその和歌の練習をしました。更に、かな書きにおいて基本となる「続け書き」いわゆる「連綿」と呼ばれているものから基本形(二字連綿)を 3 回のクラスにわたり練習しました。

3 月から 6 月初めまで練習日は合計すると 8 回ありました。そして、5 月末には参加者の皆さんが課題の和歌を色紙に収められるまでに上達しました。味のあるそれぞれの個性が光った作品です。

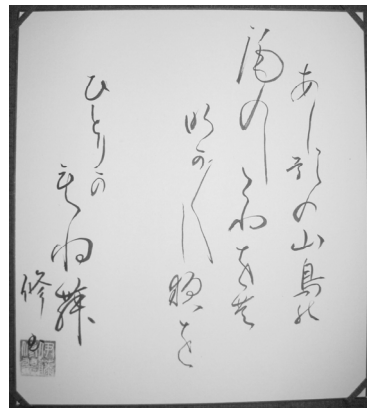
文化サロンの新しいセメスターは 8 月から始まりましたが、私の個人的な都合でメルボルンに不在だったので、書道教室は 9 月から始まりました。

9 月のクラスでは、新しく参加される方がいなかったの、前のクラスで話し合っ決めてたように、それぞれ自分で選んだ和歌を練習して色紙に仕上げる、ということで練習を始めました。中には小倉百人一首からではなく、「伊勢物語」からの選択もありました。

こちらの生活では特に筆を使うことは余りないと思いま

すし、またコンピューターの毛筆書きを利用することも出来る時代ですが、筆を持ち「書」に浸り、「書」を楽しみ、また「書」を通しての人の触れ合いを楽しんでください。

お気に入りの和歌(うた)を自分流に仕上げ、完成した作品で満足感と書の楽しさを味わっていただきたいのです。



← 百人一首を色紙に描いた生徒の作品

その色紙を掛け軸とし 床の間に ↓

